

[3] 日南市小体連

I 年間事業

期 日	曜	事 業 名	主 な 内 容	会 場
6月 9日	木	第1回理事会	役員選出、年間活動計画審議 水泳記録会実施の検討	桜ヶ丘小学校
～7月26日		水泳記録会		各小学校
7月26日	火	第2回理事会	陸上記録会実施の検討	桜ヶ丘小学校
9月22日	木	第3回理事会	陸上記録会計画案検討	桜ヶ丘小学校
11月21日	月	南那珂地区教科等研究会	研究授業 3年「プレルボール」 川原 裕一朗 教諭 事後研究会	北方小学校
～11月25日		陸上記録会		各小学校
11月25日	金	第4回理事会	陸上記録会記録整理	桜ヶ丘小学校
2月24日	金	第5回理事会	研究紀要作成 年間反省	桜ヶ丘小学校

II 事業部のあゆみ

1 水泳記録会

- (1) 大会名 日南市小学校水泳記録会
- (2) 期日 令和4年7月22日（金）までに記録をとり、7月27日（水）の理事会で認定を行う。
- (3) 会場 日南市各小学校
- (4) 参加者 日南市内小学校5・6年児童
- (5) 種目 ○ 種目
25m自由形、50m自由形 25m平泳ぎ、50m平泳ぎ
25m×4 リレー それぞれ男女別で実施
- (6) 競技方法
 - 一人**2種目以内**（ただし、リレーは除く）とする。※リレーに出場する児童は最大3種目。
 - その距離をその泳法で完泳できるものとする。
 - リレーのチーム編成については、小規模校に限り、異学年、男女混合でも可とする。
※ 5・6年生合同で編成する場合は、「6年チーム」としてのエントリーとする。
※ 男女混合で編成する場合は、「男子チーム」としてのエントリーとする。
 - 記録測定方法は「宮崎県上位入賞者記録認定要領」に準じて行う。
 - ① **ストップウォッチは、2個で計測し、遅い方のタイムとする。**
 - ② **百分の一以下は切り上げる。（例）52秒31→52秒4**
 - ③ **自由形の泳法は、クロールとする。**
- (7) 表彰 各学校の各種目5位までに記録証を配布する。
- (8) 反省
 - 新型コロナウイルスの影響で、どの学校も水泳の授業が少ない中、数少ない授業の時間を使って記録をとるのは無理があるのではないかと。
 - 授業の時間が少なく、完泳できる児童が明らかに減った。

2 陸上記録会

- (1) 大会名 日南市小学校陸上記録会
- (2) 期日 令和4年11月22日(火)までに記録をとり、11月25日(金)の理事会で認定を行う。
- (3) 会場 日南市各小学校
- (4) 参加者 日南市内小学校6年生児童。学校規模により、5年生の参加を認める。ただし、リレーに参加する選手のトラック競技のみとする。
- (5) 種目 ○ 種目
100m走 50mハードル走 400mリレー 走り高跳び 走り幅跳び
持久走(女子800m、男子1000m) ソフトボール投げ
- (6) 競技方法 ○ 選手種目については、タイムレースとする。
○ 1人が出場できるのは、2種目+リレーとする。
○ スパイクの使用は禁止する。
○ その他細部については、日南市小学校体育連盟による競技規則を適用する。
○ 100mの直線をとることができない学校では、カーブを用いて測定する。
○ 800m、1000m及び、400mリレーの距離を正確とれない施設では、無理に記録を測定する必要はない。ただし、学習の一環として記録を測定することを勧める。
- (7) 表彰 各学校の各種目5位までに記録証を配布する。
- (8) 反省
○ 運動場が200mで作られていない学校もあったため、同じ条件で記録測定をすることが難しかった。
○ 種目によっては(ボール投げ、走り高跳び、走り幅跳び)、体力テスト結果や授業の中で計測した記録を上げるなど、年間指導計画をもとに準備・実施した学校もある。
○ 複式学級を有する学校、小規模校では職員数に限りがあり、記録向上や記録計測が難しい面もある。
○ 学校によって、計測するための用具が足りないこともあった。
○ 陸上を習っている児童が当然上位に入る結果となった。さらに、陸上競技場で実施してないため、スポーツ少年団の記録よりも落ちたと肩を落としていた。記録会の必要性をあまり感じられなかった。
- (9) その他
○ 年度当初から、どこで記録が測定できるか前もって計画しておくことで、記録会にかかる負担を減らすことができるため、今年度中に年間指導計画を見直したり、教育課程に計画したりする必要がある。
○ 記録測定に必要な用具、器具等を小体連で購入したり、学校間で借用したりしながら実施する必要がある。各学校の用具器具の有無、数などを把握し、一覧にまとめて活用していきたい。

Ⅲ 研究部のあゆみ

1 研究主題・副題

運動の楽しさやできる喜びを味わい、運動に親しむ児童の育成
 ～ 主体的・対話的で深い学びを実現する授業を目指して～

2 研究の目標

児童の実態及び種目に応じた課題解決型授業をするための工夫を究明する。

3 研究の内容

本年度の日南市小体連は、新任理事が多いため昨年度までの状況を詳しく知らないという実情がある。また、昨年度はコロナ禍の影響で活動（研究を含む）が十分に行えていないという経緯があり、研究が深まってきたとはいええない。その一方で、来年度は串間・日南地区での学体研の開催が予定されている。

そこで、本年度はすべての理事が研究の一端を担えるよう領域をネット型に限定するのではなく、ゲーム・ボール運動領域の中で、次年度にいかすことができる実践を集めることにした。次年度は、さらにネット型に限定し研究を深めていきたい。

4 研究の見通し

年度	3年度	4年度	5年度
宮崎県	生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力の基礎を育む体育科学習の在り方		生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現し、継続するための資質・能力を育む体育科・保健体育科学習
学体研	都城・三股 ゴール型：タグラグビー	日向・東臼杵 ゴール型：タグラグビー	串間・日南 ネット型
日南市	ネット型	ゲーム・ボール運動領域	ネット型

5 研究の実際

(1) 学習指導過程の工夫

単元に応じて、学習の流れを固定化することで、児童が見通しをもって学習に取り組めるようになった。(図1)

1) また、運動量の確保にもつながった。

(2) ルール・場・教具の工夫

ルールの工夫は、ルールの簡易化やルールの変更などがあった。これらの工夫をすることで、全員参加を保障することができた。また、参加のし易さは児童の主体的な学習参加につながった。

場の工夫は、技能向上につながった。例えば、1・2年生のボール遊びの単元では、コーン当てや的当ての場を設けることで、児童は目標をもってボールを投げることができた(写真1)。

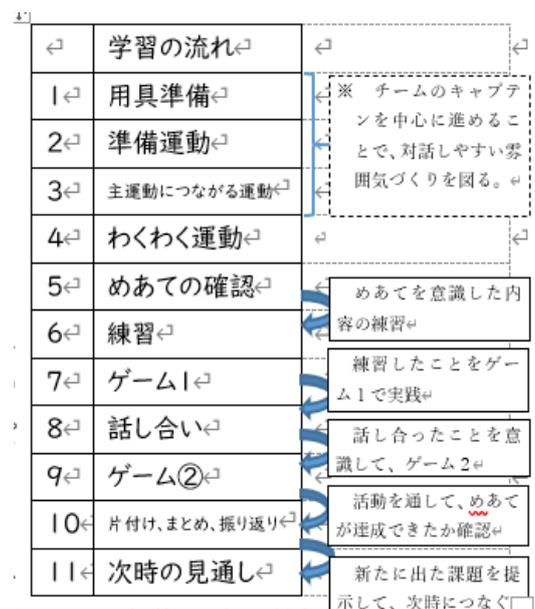


図1 学習過程の例

教具の工夫は、児童の知識の定着、思考・判断・表現の際の手助けとなった。例えば、4年生のプレルボールでは、竹棒の先に新聞紙をボールの大きさにまとめた教具を作成した。「ゲーム」の指導は、ボールの動きを示すことが難しい面がある。竹の棒に固定したボールで動きを示すことで、ボールの動きを再現しながら、課題解決の話し合いをすることができた。また、運動経験の少ない児童に対しても、ルールを説明したり、練習のやり方を示したりすることができた。



写真1：的当てをしている様子

(3) 対話の工夫

児童の対話は、課題解決をするうえで重要な場面である。今回取り扱ったゲーム・ボール領域では、課題を解決するための作戦をたてる場面や技能向上のための練習の場面で児童が対話をする時間が見られた。

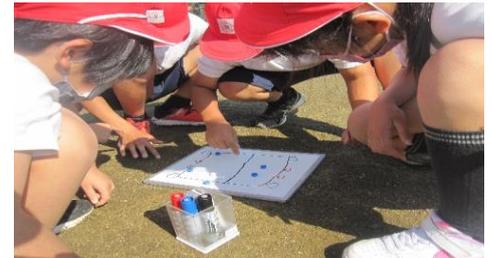


写真2：ホワイトボードと磁石を使った話し合い

例えば、4年生のグリッドサッカーでは、グループに作戦ボードとしてホワイトボードや人やボールを表す磁石を配った。これらの道具によって子どもたちは、コート上でどのように動くかチームで作戦を練ることができた(写真2)。ボールを持つ人、持たない人の動きを視覚化することで、動きがイメージしやすくなり、児童の対話が生まれた。また、班やチーム内での対話だけでなく、全員で考えを共有する取組も見られた。単元を通して学級全体で課題をしていくためには、全体で考えを共有し何が大切なのか明らかにする必要があります(写真3)。



写真3：全体で思考する様子

技能の向上での対話では、児童同士がお互いの動きを確認するだけでなく、動画を撮影し、それをもとにさらなる課題を見つけたり、参考になる動きを明らかにしたりする取組もあった。

(4) ふりかえりの工夫

学習の最後に行われるふりかえりには、ロイロノートを使う工夫が見られた。できたこと・がんばったことだけでなく、できなかったこと・難しかったこと・困ったことを書かせることで、子どもの意見を次時のめあてへとつなげたり、実態を把握したりすることができた(図2)。

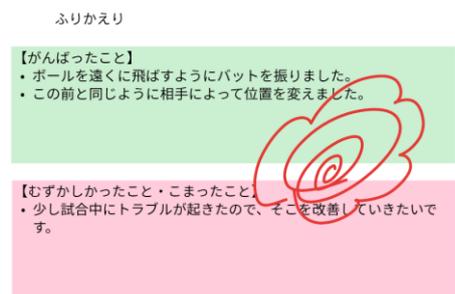


図2：ロイロノートを使った振り返り

6 研究の成果と課題

(1) 成果

授業を展開するなかで、どんな工夫をしていくとよいか明らかになってきた。次年度は、今年度の成果をいかして、日南市小体連として共通の取組を行っていきたい。

(2) 課題

評価をどのようにするかについても、次年度は研究の対象としていきたい。